

サービスラーニングから得たもの、そしてこれから

活動先：南知多町立師崎小学校

クラス：岡多枝子先生

1.自分の成長と気付き

まず初めに、全体的に見たサービスラーニング活動ということを通して成長したこと、気付いたことについて書いていきたい。

1年を通してサービスラーニング活動を行ってきた中で、自分たちの活動をするまでの経緯、たとえば仮説・目的を立てること、訪問先の選択、訪問先への交渉、訪問先との打ち合わせなどが私にとってとても難しいと感じるものだった。何もないところからのスタートというのは不安ばかりで、活動先は見つかるのか、活動として成り立つのかさえ分からない状態であったため、師崎小学校への数回の訪問を出来たこと、そして今後も継続的に師崎小学校への訪問を出来ることは自分のためになることであり、とてもうれしいことである。スタートが良かったからこそ今後の活動も続けられるのであり、スタートが肝心ということをここから改めて感じた。

また、サービスラーニングの活動の特徴と言える振り返りからは、ただ、どこに行ってもどのような活動をしたのかということ振り返るだけではなく、そこから自分たちの考えの至らなさに気づくことができ、さらに良いものを、と自分たちの活動をより良いものにしていくためのきっかけとなった。振り返りを行わなければ見えてこないことは多く、改めて適当に行ってはいけない重要な活動の一環だということが分かった。

また、活動を自分たちだけのものにするのではなく、合宿での岡ゼミ内での発表やサービスラーニング発表会を通して多くの人に伝えることができたことは、今までの活動をまとめるにあたってとても良い機会であった。何もなかったところから多くの人に伝えるというところまでほぼ自分たちの力でやりきったという経験は自分の成長に大きなそして良い影響をあたえてくれたと思う。

次に師崎小学校での活動を通して成長したこと気付いたことについて書いていきたい。まず1度目の訪問で、先ほども挙げたように自分たちの視野の狭さに改めて気づかされた。活動内容は自分たちが想像していたものと違っており、私たちの立てた仮説がもともとある一部分にしか焦点をあてていなかったために、仮説検証をすることができなかった。活動自体は学ぶことも多く、とても良いものであったため、もったいないことをしたと残念な気持ちにもなった。しかし最初の活動でさっそく自分たちの考えの甘さに気づけたこと、そしてそこから改めて広い視野での仮説を立てることができたことは、その後の活動にも良い影響を与えてくれることとなり、活動内容が変更したことは自分たちにとって結果的にはよい方向へと進むきっかけとなった。

2度目の訪問では、自分たちの未熟さということではなく、師崎小学校の先生方の動き方、子どもたちへの接し方を見て教師としてのプロフェッショナルを学び、師崎という地域に住む人々の関わりを見ての地域が教育に参加していくことの大切さを感じることで

きた。

2度の活動を通して、経験を積むことの大切さについて改めて考えさせられた。実際に訪問してみなければ、行動してみなければわからないことは多く、自分たちの未熟さに気づくことができたのも、やはり実際にその現場に触れることができたからであった。ただ参考書を開き、そして机に向かって勉強し知識をつめこんでいるだけでは見えてこないものも多いはずである。かといって経験だけ積んでいけばいいというものではなく知識もちろん必要であるため、この両方をバランスよく身につけていくことが大切である。機会を見つけたたくさん現場に触れるとともに、勉強面もしっかりしていこう、頑張らなければという気持ちが強くなった。

さいごにさまざまな発表会を通して成長したこと気づいたことを書いていきたい。先ほども挙げたように発表会は自分たちの活動を多くの人に伝えるよいきっかけとなるものである。発表の準備はものすごく大変なものだが、その準備こそが自分を成長させる上で大きな役割を果たしてくれるとわたしは思う。

発表はいかに分かりやすく、端的に文書をまとめ、パワーポイントでスライドをつくり上げるということが重要となるのだが、私自身、とても苦手なことである。しかし、逃げるわけにもいかないため、とにかく班のみんなと案を出し合い、必死に頑張るしかなかった。だからこそ資料が完成したとき、そして発表がしっかりできたときの達成感は大きく、頑張ってきて良かったと思えるに違いない。発表を通して文章を書く力、読む力、まとめる力、そして誰かと協力する力がついていくと私は思う。また人に何かを伝えることの難しさ、そしてやり終えた後の達成感を感じることができたことは、私にとって新たなスタートへのエネルギーともなりとても良い経験となった。

2.この活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

活動先がある師崎という地域は先ほども挙げたように地域と学校との連携が取れており地域がしっかり教育に参加することができているところと言えるのであるからしてこの点については問題がない。そこで私は地域に向けた活動というより、師崎小学校に向けた活動を考えようと思う。

私たちは今、日本福祉大学という主に「ふくし」についての学校で学んでいる。真正面から向き合っている分野であるからこそ少しでも「ふくし」に対して興味・関心を持っている子どもたちに私たちの言葉で何か伝えることができたと思うようになった。その思いをきっかけとして、学校での総合の時間などを利用し、私たちが教える側となり「ふくし」に関する授業ができたかと考えるようになった。まだ計画も初期段階で特に何か具体的な案があるわけではないため、今後も引き続き師崎小学校への訪問・活動をしていながら、その中でこの計画も実行できたらと考えている。この活動を通してきっと私たち自身もさらに大きく成長できるはずである。そして、これからの将来を担う子どもたちも更に「ふくし」に興味を持ってくれるようになるのではと期待している。この計画を実行することを今後の目標とし、自分たちの活動を精一杯がんばっていきたい。